HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道南部函館市臼尻沿岸から得られた5種の魚類
Author(s)	鶴岡, 理; 山中, 智之; 阿部, 拓三 他
Citation	北海道大学水産科学研究彙報, 58(3), 43-50
Issue Date	2009-02-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36086
Type	departmental bulletin paper
File Information	58-3_p43-50.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北 大 水 産 彙 報
58(3), 43–50, 2009.

北海道南部函館市臼尻沿岸から得られた5種の魚類

鶴岡　　理[1)]・山中　智之[1)]・阿部　拓三[2)]・武藤　文人[3)]
宗原　弘幸[4)]・矢部　　衞[5)]・仲谷　一宏[5)]

(2008年7月29日受付，2008年12月26日受理)

Records of Five Fish Species from off Usujiri, Southern Hokkaido, Japan (Pisces : Teleostei)

Osamu TSURUOKA[1)], Tomoyuki YAMANAKA[1)], Takuzo ABE[2)], Fumihito MUTO[3)], Hiroyuki MUNEHARA[4)], Mamoru YABE[5)] and Kazuhiro NAKAYA[5)]

Abstract

A holocentrid *Ostichthys japonicus* (Cuvier, 1829), a platycephalid *Platycephalus* sp., a cottid *Icelus sekii* Tsuruoka, Munehara and Yabe, 2006, an agonid *Bothragonus occidentalis* Lindberg, 1935, and a stichaeid *Lumpenopsis pavlenkoi* Soldatov, 1916 were collected from off Usujiri, Hakodate, Hokkaido, northern Japan, the western North Pacific. *Ostichthys japonicus* was previously recorded from the south of Aomori Prefecture and further southern waters ; thus present report represents the northern-most record of the species. *Platycephalus* sp. and *B. occidentalis* were known only by pelagic juveniles from off Usujiri. Hence, we report the first records of adults of these species from this waters. As *I. sekii* was previously known only from its type locality, off Rausu and Urakawa, Hokkaido, present report is the second and the southern-most records of this species. *Lumpenopsis pavlenkoi* has been collected from Peter the Great Bay, Okhotsk coast of Hokkaido and the waters around the Kamchatka Islands, thus present report represents southern-most record of this species in the Pacific Ocean.

Key words : *Ostichthys japonicus, Platycephalus* sp., *Icelus sekii, Bothragonus occidentalis, Lumpenopsis pavlenkoi,* First records, Usujiri, Hokkaido

函館市臼尻 (41°56′ N, 140°57′ E) は北海道南部の渡島半島東南端に位置し，その沿岸は寒冷な親潮表層水と温暖な津軽暖流水の両方の影響を受け，年間を通じて表面水温は3℃から20℃まで極めて大きく変動する。本地には，1970年3月に北海道大学水産学部附属臼尻水産実験所 (現，北海道大学北方生物圏フィールド科学センター臼尻水産実験所) が開設され，主に北方系海洋生物を対象とした様々な研究の拠点となっている。臼尻沿岸の魚類相に関する知見は，1967年から1987年にかけて行われた北海道大学水産学部水産動物学講座 (現，海洋生物学講座・魚類体系学領域) の卒業研究に拠るところが大きい。これらの成果はAmaoka et al. (1989) によりまとめられ，近隣の海域から採集された魚類を含めて26目111科320種が報告された。また，近接する噴火湾や亀田半島沿岸の魚類相も盛んに研究されており (Hikita, 1950, 1951 ; Sato and Kobayashi, 1956 ; Kobayashi and Ikeda, 1962)，本海域の魚類相は比較的良く解明されていると言える。しかし，近年においても本海域からは新種や初記録種が相次いで発見されており (Yabe and Maruyama, 2001 ; 鶴岡ら，2006, 2007 ; Tsuruoka et al., 2008)，さらなる魚類学上の発見が期待される海域でもある。

2005年から2007年にかけて，潜水調査および定置網に

[1)] 北海道大学大学院水産科学院海洋生物学講座・魚類体系学領域
［*Chair of Marine Biology and Biodiversity (Systematic Ichthyology), Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University*］
[2)] 南三陸町自然環境活用センター
(*Shizugawa Nature Center, Minamisanriku-cho*)
[3)] 水産総合研究センター遠洋水産研究所
(*National Research Institute of Far Seas Fisheries, Fisheries Research Agency*)
[4)] 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター臼尻水産実験所
(*Usujiri Fisheries Station, Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University*)
[5)] 北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物学分野・魚類体系学領域
［*Laboratory of Marine Biology and Biodiversity (Systematic Ichthyology), Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University*］

より，イットウダイ科 Holocentridae のエビスダイ *Ostichthys japonicus* (Cuvier, 1829)，カジカ科 Cottidae のラウスカジカ *Icelus sekii* Tsuruoka, Munehara and Yabe, 2006, トクビレ科 Agonidae のサイトクビレ *Bothragonus occidentalis* Lindberg, 1935, タウエガジ科 Stichaeidae のトンガリギンポ *Lumpenopsis pavlenkoi* Soldatov, 1916 と同定される標本が相次いで採集された。また，北海道大学総合博物館所蔵の標本の中から，臼尻沖から採集されたコチ科の Platycephalidae マゴチ *Platycephalus* sp. およびトンガリギンポと同定される標本が発見された。これらの魚類はいずれも分布に関する新知見を含んでいることが明らかになった。よって，本研究ではこれら 5 種を記載し，それらの分布に関する新情報を与える。臼尻周辺海域から記録された魚類は，本研究において記載された 5 種を含めることにより 26 目 112 科 229 種となる (Amaoka et al., 1989 ; Yabe and Maruyama, 2001 ; Miyahara et al., 2004 ; 鶴岡ら，2006, 2007 ; Tsuruoka et al., 2008)。

計数計測方法は原則として Hubbs and Lagler (1958) に従い，一部の計測部位については，エビスダイでは Randall et al. (1982) に，ラウスカジカでは Yabe (1991) に，サイトクビレでは Kanayama (1991) に，トンガリギンポでは Amaoka et al. (1977) に従った。標準体長および全長はそれぞれ SL と TL の略号で表す。脊椎骨および一部の鰭条の観察には軟 X 線写真を用いた。本研究に供した標本は全て北海道函館市臼尻沖 (41° 56.4 N, 140° 57.7 E) から採集され，北海道大学総合博物館 (HUMZ) に所蔵されている。

本研究を進めるにあたり，北海道大学総合博物館の今村央博士から数多くのご助言をいただいた。また，標本採集の際，同大学北方生物圏フィールド科学センター臼尻水産実験所の野村潔技官にご協力をいただいた。ここに謹んでお礼申し上げる。

エビスダイ
Ostichthys japonicus (Cuvier, 1829)
(Fig. 1)

材料

HUMZ 197775, 性別不明 1 個体, 219.4 mm SL, 定置網, 2006 年 11 月 27 日。

記載

背鰭条数 XII, 13 ; 臀鰭条数 IV, 11 ; 胸鰭条数 17 ; 腹鰭条数 I, 7 ; 有孔側線鱗数 28 ; 側線上方横列鱗数 3.5 ; 鰓耙数 7＋13 ; 脊椎骨数 6＋19＝25。

体各部の相対長 (% SL) 頭長 40.5 ; 体高 48.8 ; 吻長 8.7 ; 上顎長 23.9 ; 下顎長 18.5 ; 眼径 12.9 ; 両眼間隔 7.5 ; 眼下骨高 4.1 ; 尾柄高 10.0 ; 尾柄長 13.0 ; 背鰭前長 41.8 ; 臀鰭前長 81.3 ; 背鰭基底長 58.7 ; 臀鰭基底長 19.7 ; 胸鰭基底長 6.7 ; 背鰭最長棘条長 (第 3 棘条) 18.8 ; 臀鰭最長棘条長 (第 3 棘条) 11.2 ; 最長胸鰭軟条長 24.3 ; 腹鰭長 21.6 ; 腹鰭棘条長 15.8。

体は卵形で，側扁する。背鰭最終棘条はその直前の棘条



Fig. 1. *Ostichthys japonicus,* HUMZ 197775, 219.4 mm SL.

より長い。体は強大な櫛鱗に被われる。鱗の表面には多数の隆起が体側に沿って並び，その後端は棘状を呈する。第 1 側線の鱗前上方に鱗はない。鼻骨の先端に棘がなく，両側の鼻骨間は幅広い V 字型を呈する。眼下骨の下縁は鋸歯状。眼下骨高は眼窩径の約 35%。主鰓蓋骨後端に顕著な 1 棘がある。前鰓蓋骨の隅角部に棘はない。

生鮮時の色彩は，頭部および体部は一様に鮮赤色。各鰭は淡赤色を呈する。アルコール液浸下の色彩は，体はやや桃色を帯びる淡白色。各鰭は淡白色。

分布

本種は，北海道南部函館市臼尻沖 (本研究)，青森県沖 (塩垣ら，2004)，岩手県沖 (丸山，1971)，宮城県沖 (座間，2001)，南日本沿岸 (林，2000)，韓国沿岸 (Kim et al., 2005)，南シナ海 (Randall and Lim, 2000)，オーストラリア•ニューサウスウェールズ沿岸 (Randall et al., 1982)，およびアンダマン海 (久新ら，1973) にかけて広く分布する。

備考

本標本は，背鰭は 1 基で，その棘条数が 12 である，前鰓蓋骨の隅角部に棘がない，両側の鼻骨間は幅の広い V 字型を呈するなどの特徴から，イットウダイ科のエビスダイ属 *Ostichthys* に属する (Randall et al., 1982；林，2000)。さらに，本標本の側線上方の横列鱗数が 3.5 である，背鰭最終棘条はその直前の棘条より長い，最長背鰭棘条長が頭長の 46% である，胸鰭軟条数が 17 であるなどの特徴は，Randall et al. (1982) および林 (2000) が示したエビスダイの特徴と一致する。一方，本標本の眼下骨高は眼径の約 35% であり，眼径の 1/2 であると報告した Randall et al. (1982) の記載とは一致しない。しかし，その他の特徴はエビスダイの特徴によく一致するため，本標本をエビスダイと同定し，本標本に見られる眼下骨高の差異を本種の種内変異と判断した。

エビスダイは日本では主に南日本に分布するとされるが (清水，1997; 林，2000)，青森県，岩手県，宮城県からも多くの報告がある (丸山，1971; 座間，2001; 塩垣ら，2004)。しかし，これまでに北海道からの採集報告はなかった (例えば，上野，1971; 矢部ら，1991; 尼岡ら，1995; 前田•筒井，2003)。従って，本研究は本種の北海道初記録であるとともに分布の北限記録である。

マゴチ
Platycephalus sp.
(Fig. 2)

材料

HUMZ 201331，性別不明 1 個体，296.3 mm SL，定置網，1991 年 10 月 24 日。

記載

背鰭条数 I–I–VII–I–13；臀鰭条数 13；胸鰭条数 19；腹鰭条数 I，5；側線鱗数 69；側線上方斜走鱗列数 96；鰓耙数 2＋9；脊椎骨数 12＋15＝27。

体各部の相対長 (% SL)　頭長 29.6；体高 10.2；吻長 7.7；上顎長 10.7；下顎長 11.2；眼窩径 3.7；両眼間隔 4.8；眼窩後頭長 18.3；尾柄高 4.2；尾柄長 8.7；背鰭前長 31.0；臀鰭前長 55.8；腹鰭前長 34.3；第 1 背鰭基底長 16.4；第 2 背鰭基底長 35.0；臀鰭基底長 37.8；胸鰭基底長 6.3；最長胸鰭条長 13.9；腹鰭長 20.6。



Fig. 2.　*Platycephalus* sp., HUMZ 201331, 296.3 mm SL.

体は縦扁し，尾柄部はやや側扁する。頭部は著しく縦扁する。眼は小さく，眼窩径は吻長の約 1/2。眼隔域は広く，平坦。下顎先端は上顎より突出し，丸い。鋤骨歯は 1 枚の三日月状の歯板を形成する。眼下骨に顕著な棘はない。前鰓蓋骨棘は 2 本で，下方棘がやや伸長する。小さな間鰓蓋骨皮弁がある。頭部背面の棘は弱く鈍い。尾鰭上葉は伸長せず，下葉とほぼ同長。

アルコール液漬下での色彩は茶褐色を呈し，背鰭基底下に計 4 本の濃褐色鞍状斑がある。体の腹面は淡色。背鰭に褐色小斑が分布する。臀鰭は一様に白色。胸鰭および腹鰭に茶褐色の小斑が密に分布する。尾鰭は淡色で，3 本の黒色縦縞がある。

分布

北海道南部函館市臼尻沖 (本研究)，青森県沖 (塩垣ら，2004)，および南日本各地 (今村，1997)。

備考

本標本は鋤骨に 1 枚の三日月状の歯板がある，頭部背面の棘が弱い，眼下骨に顕著な棘がない，前鰓蓋骨棘が 2 本で下方棘がやや伸長するなどの特徴から，コチ科のマゴチ属 *Platycephalus* に含まれる (Imamura, 1996)。かつては，日本周辺海域には，マゴチ属魚類はコチ *Platycephalus indicus* (Linnaeus, 1758) 1 種のみが生息するとされていた (松原，1955 ; Matsubara and Ochiai, 1955 ; 落合，1984 など)。しかし，中坊 (1993, 2000a)，今村 (1997)，増田ら (1997) などの最近の見解によると，日本近海には未記載種と思われる 2 種が分布しており，中坊 (1993, 2000a) は，それらをヨシノゴチ *Platycephalus* sp. 1 とマゴチ *Platycephalus* sp. 2 とした。本標本は，下顎先端が丸い，体に 4 本の濃褐色鞍状斑がある，胸鰭に茶褐色の小斑が密に分布するなどの特徴からヨシノゴチとは識別され，マゴチのそれとよく一致する。よって本研究では本標本をマゴチと同定した。

Amaoka et al. (1989) は，本海域からコチ *P. indicus* の浮遊期の稚魚 (12.7 mm SL) を報告しているが，これがマゴチとヨシノゴチのどちらであるかは不明である。また，これまで北海道南部から本属魚類の成魚の記録はない。従って，本研究は本海域からのマゴチ成魚の初記録であり，本種の確実な本海域からの初記録および北限記録である。

ラウスカジカ
Icelus sekii Tsuruoka, Munehara and Yabe, 2006
(Fig. 3)

材料

HUMZ 190688–190689，雄 1 個体および雌 1 個体，28.4–37.9 mm SL，水深 20 m，漁礁，SCUBA 潜水，2004 年 9 月 24 日，阿部拓三採集 ; HUMZ 192091–192092，雄 1 個体および雌 1 個体，47.1–48.0 mm SL，水深 20 m，漁礁, SCUBA 潜水，2004 年 11 月，阿部拓三採集。

記載

背鰭条数 VIII–IX–18–19 ; 臀鰭条数 13 ; 胸鰭条数 15–16 ; 腹鰭条数 I，3 ; 側線鱗数 39 ; 背側鱗数 37–44 ; 脊椎骨数 12＋24＝36。

体各部の相対長 (% SL)　頭長 35.6–39.0 ; 体高 22.2–24.6 ; 吻長 8.7–12.3 ; 上顎長 14.1–17.5 ; 下顎長 13.7–16.1 ; 眼窩径 10.3–12.3 ; 両眼間隔 3.2–3.5 ; 眼窩後頭長 15.5–18.5 ; 尾柄高 6.0–6.9 ; 尾柄長 20.6–21.8 ; 背鰭前長 32.1–35.6 ; 臀鰭前長 53.3–57.7 ; 腹鰭前長 28.2–34.4 ; 第 1 背鰭基底長 16.5–22.9 ; 第 2 背鰭基底長 35.2–43.8 ; 臀鰭基底長 24.8–29.3 ; 胸鰭基底長 12.3–14.2 ; 最長胸鰭条長 31.0–35.2 ; 腹鰭長 17.9–20.1。

体は側扁し，伸長しない。鋤骨歯および口蓋骨歯をもつ。眼上棘および後頭棘はない。頸棘は退化的で，皮下に埋没する。前鰓蓋骨棘は 4 本で，最上棘は分枝しない。体側に櫛鱗からなる側線鱗列と背側鱗列がある。眼球の上部に少数の小鱗が散在する。頬部，胸鰭腋部，側線と背側鱗列の

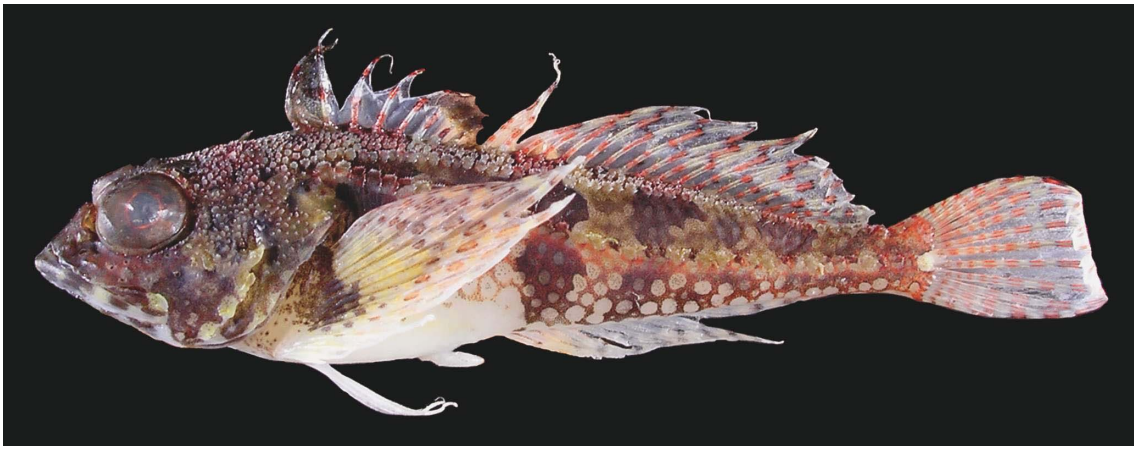


Fig. 3.　*Icelus sekii,* HUMZ 190689, male, 37.9 mm SL.

間，側線の下方および体の腹面は無鱗。眼の上縁に 1 本の不分枝小皮弁がある。それぞれ 1 対の眼上皮弁，頸部皮弁および後頭皮弁がある。複数の側線鱗および背側鱗に不分枝の小皮弁が付属する。

生鮮時の色彩は茶褐色から赤褐色を呈し，腹部に白色の虫食い状斑紋が散在する。第 1 背鰭基底下に 1 個の，第 2 背鰭基底下に 3 個および尾柄部に 1 個の，合わせて 5 個の濃褐色鞍状斑がある。各鰭は半透明。第 1 背鰭後部に 1 つの黒色斑がある。第 2 背鰭に多数の斜走赤褐色帯がある。臀鰭に多くの黒色小斑が散在する。胸鰭および尾鰭に多数の赤褐色横帯がある。アルコール液漬下の色彩は，灰褐色から茶褐色を呈し，頭部はやや暗色。腹部に白色の虫食い状斑紋が散在する。第 1 背鰭基底下に 1 個の，第 2 背鰭基底下に 3 個および尾柄部に 1 個の，合わせて 5 個の暗色鞍状斑がある。

分布

北海道東部羅臼沖と浦河沖 (Tsuruoka et al., 2006)，および北海道南部函館市臼尻沖 (本研究) に分布し，水深 20–73 m の岩礁域に生息する (Tsuruoka et al., 2006 ; 本研究)。

備考

本標本は 4 本の前鰓蓋骨棘があり最上棘が伸長する，口蓋骨歯と前鋤骨歯がある，1 列の側線鱗列と 1 列の背側鱗列がある，腹鰭が 1 棘 3 軟条で構成されるなどの特徴から，カジカ科のコオリカジカ属 *Icelus* に含まれる (Nelson, 1984)。コオリカジカ属には 17 有効種が知られ (矢部, 1983 ; Nelson, 1984 ; Tsutsui and Yabe, 1996 ; 中坊, 2000b ; Tsuruoka et al., 2006)，本標本は体が伸長しない，前鰓蓋骨棘最上棘が分枝しない，頸棘が未発達で皮下に埋没する，眼上棘および後頭棘がない，アルコール液漬下での色彩が淡褐色を呈するなどから，ラウスカジカとダルマコオリカジカ *Icelus gilberti* Taranetz, 1936 に類似する。さらに本標本は，頬部および側線と背側鱗列の間が無鱗である，体に 5 個の鞍状斑があるなどの特徴によりダルマコオリカジカとは識別され，ラウスカジカの特徴とよく一致する。本標本の背鰭棘条数の範囲 (8–9)，胸鰭条数の範囲 (15–16) および背側鱗列数の範囲 (37–44) は，Tsuruoka et al. (2006) が示したラウスカジカの値の範囲 (背鰭棘条数 9，胸鰭条数 15，背側鱗数 39–40) より広い。しかし，その他の特徴はよく一致することから本標本をラウスカジカと同定し，これら 3 形質で見られた違いは本種の種内変異であると判断した。

これまで本種は，北海道東部羅臼沖および浦河沖から得られた 6 個体に基づく原記載のみが知られており，北海道函館市臼尻沖からは初めての記録となる。従って，本研究は本種の本海域初記録および分布の南限記録である。

サイトクビレ
Bothragonus occidentalis Lindberg, 1935
(Fig. 4)

材料

HUMZ 195981，性別不明 1 個体，32.5 mm SL，水深 10 m，岩礁帯，SCUBA 潜水，2006 年 5 月 16 日，鶴岡　理採集 ; HUMZ 201212–201213，性別不明 2 個体，36.4–55.7 mm SL，水深 10 m，岩礁帯，SCUBA 潜水，2004 年 11 月，鶴岡　理採集 ; HUMZ 201309，性別不明 1 個体，32.0 mm SL，水深 10 m，岩礁帯，SCUBA 潜水，2008 年 2 月 1 日，鶴岡　理採集。

記載

背鰭条数 III–5 ; 臀鰭条数 5–6 ; 胸鰭条数 11 ; 腹鰭条数 I, 2 ; 側線孔数 35–36 ; 脊椎骨数 9＋29＝38 ; 背鰭前骨板数 8 ; 背側正中列骨板数 12–13 ; 背側列骨板数 22–25 ; 側線上方列骨板数 30–34 ; 側線下方列骨板数 32–33 ; 腹側列骨板数 24–25 ; 腹側正中列骨板数 10–11。

体各部の相対長 (% SL)　頭長 28.0–30.8 ; 体高 14.4–18.5 ; 吻長 7.2–7.7 ; 眼窩径 5.2–6.0 ; 両眼間隔 6.3–7.2 ; 眼窩後頭長 15.9–17.9 ; 尾柄高 10.0–11.1 ; 尾柄長 27.5–31.2 ; 背鰭前長 41.6–44.3 ; 臀鰭前長 60.5–63.2 ; 腹鰭前長 24.6–26.1 ; 腹鰭臀鰭間長 35.9–39.1 ; 腹鰭肛門間長 8.6–13.2 ; 第 1 背鰭長 1.9–2.5 ; 第 1 背鰭基底長 3.7–4.7 ; 第 2 背鰭長 4.3–8.6 ; 第 2 背鰭基底長 6.3–9.1 ; 臀鰭長 5.0–7.1 ; 臀鰭基底長 9.2–11.7 ; 胸鰭基底長 16.5–17.6 ; 腹鰭長 11.1–13.2。



Fig. 4.　*Bothragonus occidentalis,* HUMZ 201309, 32.0 mm SL.

体は堅固な骨板に被われ，やや伸長し，強く側扁する。頭部は大きく，やや縦扁する。口は端位。口蓋骨歯および鋤骨歯をもつ。吻端に肥大した吻骨板がある。後鼻管は短く，上顎に達しない。後頭部は凹み，後頭孔を形成する。鰓膜は峡部に癒合する。第1背鰭は小さく痕跡的。吻骨板に棘はない。頭部背面に棘はない。吻端および上顎後端に触髭がない。側線の背方に2列の骨板列がある。鰓膜および咽喉部に皮弁はない。後頭孔内部に皮質突起はない。

生鮮時の色彩は一様にやや茶色がかった黒色を呈し，頭部と胸鰭基部は体よりやや明色を呈する。アルコール液漬下での色彩は，生時とほぼ同色を呈する。

分布

本種はロシア沿海州ピーター大帝湾，北海道オホーツク海沿岸雄武沖，北海道東部釧路町昆布森沖，歯舞諸島沖，および千島列島沖 (Kanayama, 1991)，北海道南部函館市臼尻沖 (Amaoka et al., 1989；本研究)，青森県下北半島東岸東通村白糠沖 (塩垣ら，1992) および岩手県北部種市町沖 (服部•石戸，1995) に分布し，水深 0.5–35 m のタイドプール，岩礁域および転石帯に生息する (服部•石戸，1995；本研究)。

備考

本標本は背鰭が2基で，第1背鰭は小さく痕跡的である，吻および上顎後端に触髭がない，後鼻管は短く，上顎に達しない，吻骨板に棘がないこと，後頭部が凹み，後頭孔を形成するなどから，トクビレ科のサイトクビレ属 *Bothragonus* に含まれる (Kanayama, 1991)。本属にはデブサイトクビレ *Bothragonus swanii* (Steindachner, 1876) とサイトクビレ *B. occidentalis* の2有効種が知られるが (Sheiko and Mecklenberg, 2004)，本標本は後頭孔内に皮質突起がない，背側正中列骨板数が 12–13 である，腹側正中列骨板数 10–11 であるなどの特徴によりデブサイトクビレとは識別され，Lindberg (1935) および Kanayama (1991) が示したサイトクビレの特徴とよく一致する。従って，本研究では本標本をサイトクビレと同定した。

本種は北海道函館市臼尻沖からは浮遊期の仔魚 (8.4–12.9 mm TL) のみが知られ (Amaoka et al., 1989)，本研究が成魚の初めての記録となる。なお，本種の分布の南限は，服部・石戸 (1995) によって示された岩手県北部種市町沖である。

トンガリギンポ
Lumpenopsis pavlenkoi Soldatov, 1916
(Fig. 5)

材料

HUMZ 121697, 121699，性別不明2個体，37.9–69.2 mm SL，水深 20 m，ドレッヂ，1992年4月30日，武藤文人•駒井智幸氏•筒井大輔氏採集；HUMZ 126594，性別不明1個体，53.5 mm SL，水深 25 m，ドレッヂ，1993年4月23日，武藤文人採集；HUMZ 126596–126597，性別不明2個体，42.1–64.2 mm SL，水深 20–30 m，ドレッヂ，1990年7月2日，採集者：駒井智幸氏・遠藤広光氏・佐藤哲氏採集；HUMZ 126599，性別不明1個体，58.5 mm SL，水深 20–30 m，ドレッヂ，1993年5月11日；HUMZ 128890，性別不明1個体，70.9 mm SL，水深 25 m，ドレッヂ，1993年4月23日，武藤文人採集；HUMZ 131390, 131392，性別不明2個体，46.2–62.1 mm SL，水深 20–25 m，ドレッヂ，1993年8月19日，武藤文人採集；HUMZ 131398, 131400，性別不明2個体，48.0–51.5 mm SL，水深 15–30 m，ドレッヂ，1993年8月20日，武藤文人採集；HUMZ 190054，性別不明1個体，61.1 mm SL，水深 10 m，岩礁帯，SCUBA 潜水，2007年5月21日，鶴岡　理採集；HUMZ 196186，性別不明1個体，46.4 mm SL，水深 12.8 m，岩礁帯，SCUBA 潜水，2006年5月26日，鶴岡　理採集。

記載

背鰭条数 XLVIII–L；臀鰭条数 II, 29–31；胸鰭条数 12；腹鰭条数 I, 3；鰓条骨数 6；脊椎骨数 17–19＋35–37＝53–55；鼻部孔数 2；両眼間隔孔数 1；眼下孔数 2；後頭孔数 3；眼後孔数 4–5；前鰓蓋孔数 5；下顎孔数 3。

体各部の相対長 (% SL)　頭長 17.8–20.3；体高 17.8–20.3；吻長 4.7–5.8；上顎長 5.8–7.4；下顎長 5.2–6.5；眼窩径 3.4–4.5；両眼間隔 (肉質部) 1.3–2.3；両眼間隔 (骨質部) 0.4–1.1；眼窩後頭長 9.5–10.8；尾柄高 4.4–5.2；背鰭前長 16.3–18.5；臀鰭前長 45.2–47.3；背鰭基底長 80.0–84.3；胸鰭基底長 3.3–4.2；背鰭第1棘条長 1.3–2.1；背鰭第10棘条長 2.1–2.9；臀鰭第1棘条長 1.2–2.1；臀鰭第2棘条長2.0–3.1；最長胸鰭条長 12.7–15.8；腹鰭長 6.5–8.5；腹鰭棘条長 1.3–2.2。

体は細長く側扁し，小さな円鱗に被われる。体側に明瞭な側線がない。頭部は長く円錐形を呈し，背面に突起がな



Fig. 5.　*Lupenopsis pavlenkoi,* HUMZ 126599, 58.5 mm SL.

い。眼下孔は眼窩の前下方に開孔する。吻は尖る。上唇は吻の前部と癒合する。下顎は上顎に含まれる。口は小さく上顎の後端は眼窩中央の下方に達しない。鋤骨歯および口蓋骨歯がある。頬部および後頭孔の後方は微細な鱗に被われる。左右の鰓膜は癒合し，峡部から離れる。背鰭棘条は短い。

アルコール液浸下での色彩は，体は淡黄色を呈し，背鰭起部から後端にかけて6または7個の台形の鞍状斑が並ぶ。背鰭基底部に約5個の黒色の小斑紋が並ぶ。尾鰭には小黒点が散在する。他の鰭は淡白色。

分布

本種は，北海道南部函館市臼尻沖（本研究），ピーター大帝湾，およびタタール海峡（Soldatov, 1916），オホーツク海北海道沿岸（尼岡ら，1995）および千島列島（Sheiko and Fedorov, 2000）に分布する。

備考

本標本は，吻が尖り，その前部が上唇と癒合する，鰓条骨数が6である，後頭孔が3である，眼下孔数が2である，下顎孔数が3であるなどの特徴によりトンガリギンポ属 *Lumpenopsis* に含まれる（Hasting and Walker, 2003）。さらに本標本で見られた，臀鰭棘条数が2である，頬部が鱗に被われる，左右の鰓膜が癒合する，背側に6–7個の鞍状斑があるなどの特徴はトンガリギンポ *L. pavlenkoi* のそれとよく一致する（Soldatov, 1916；波戸岡，2000；Hasting and Walker, 2003）。従って，本標本をトンガリギンポと同定した。

本種の日本における分布は，これまで尼岡・三木（1984），尼岡ら（1995）および野別ら（1998）によるオホーツク海沿岸からの報告があるが，本研究において，北海道南部函館市臼尻沖にも分布することが確認された。従って，本研究は本種の太平洋岸における南限記録である。

引 用 文 献

尼岡邦夫・三木　徹（1984）タウエガジ科．pp. 288–290, 益田　一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編），日本産魚類大図鑑，東海大学出版会，東京．

Amaoka, K., Nakaya, K. and Yabe, M. (1989) Fishes of Usujiri and adjacent waters in southern Hokkaido, Japan. *Bull. Fac. Fish. Hokkaido Univ.,* **40**, 254–277.

尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部　衛（1995）北日本魚類大図鑑．北日本海洋センター，札幌．

Amaoka, K., Toyoshima, M. and Inada, T. (1977) New records of the stichaeid fish *Ascoldia variegata knipowitschi* and the zoarcid fish *Puzanovia rubra* from Japan. *Japan. J. Ichthyol.,* **24**, 91–97.

Hasting, P. A. and Walker Jr. H.J. (2003) *Lumpenopsis clitella*: a new species of prickleback (Teleostei: Stichaeidae) from southern California, with comments on *Lumpenopsis* Soldatov. *Copeia,* **2003**, 803–809.

波戸岡清峰（2000）タウエガジ科．pp. 1049–1054, 1593–1594, 中坊徹次（編），日本産魚類検索．全種の同定．第2版，東海大学出版会，東京．

服部　努・石戸芳男（1995）岩手県種市沖で採取されたクチバシカジカとサイトクビレ．東北水研ニュース，**48**, 17.

林　公義（2000）イットウダイ科．pp. 487–499, 1503–1504, 中坊徹次（編），日本産魚類検索．全種の同定．第2版，東海大学出版会，東京．

Hikita, T. (1950) Notes on fish fauna of Volcano Bay in Hokkaido. (I). *Sci. Rep. Hokkaido Fish. Hatchery,* **5**, 127–139.

Hikita, T. (1951) Fishes of Volcano Bay in Hokkaido. *Japan. J. Ichthyol.,* **1**, 306–313.

Hubbs, C.L. and Lagler, K.F. (1958) Fishes of the Great Lakes region. *Bull. Cranbrook Inst. Sci.,* (**26**), i–xv, 1–213, pls. 1–44.

Imamura, H. (1996). Phylogeny of the family Platycephalidae and related taxa (Pisces: Scorpaeniformes). *Spec. Div.,* **1**, 123–233.

今村　央（1997）コチ科．pp. 218–221, 岡村　収・尼岡邦夫（編・監修），日本の海水魚，山と渓谷社，東京．

Kanayama, T. (1991) Taxonomy and phylogeny of the family Agonidae (Pisces: Scorpaeniformes). *Mem. Fac. Fish. Hokkaido Univ.,* **38**, 1–199.

Kim, I., Choi, Y., Lee, C., Lee, Y., Kim, B. and Kim, J. (2005) *Illustrated Book of Korean Fishes* (In Korean). Kyohaku publishing, Seoul.

Kobayashi, K. and Ikeda, T. (1962) Ichthyofauna of the marine waters adjacent to Shirikishinai in southern Hokkaido, Japan. *Fauna and Flora of the Sea Around the Shirikishinai Marine Station,* **4**, 1–21.

久新健一郎・尼岡邦夫・仲谷一宏・井田　斉（1973）東部インド洋アンダマン周辺海域の魚類．海洋水産資源開発センター，東京．

Lindberg, G.U. (1935) Description of a new species *Bothragonus occidentalis* (Agonidae: Pisces) from the Sea of Japan (in Russian, with English summary). *Bull. Acad. Sci. USSR, Classe Sci., mathema. Nat.* **1935**, 1–5.

前田圭司・筒井大輔（2003）北海道産魚類リスト．pp. 481–504, 上田吉幸・前田圭司・嶋田　宏・鷹見達也（編），漁業生物図鑑 新北の魚たち，北海道新聞社，札幌．

丸山　潔（1971）岩手県産魚類目録．岩手県水試研報，(**1**), 1–70.

増田育司・原口美奈江・小澤貴和・松井誠一・林　功（1997）周防灘西部および八代海南部海域産コチ属2種の形態学的および遺伝生化学的比較．日本水産学会誌，**63**, 345–352.

松原喜代松（1955）魚類の形態と検索．石崎書店，東京．

Matsubara, K. and Ochiai, A. (1955) A revision of the Japanese fishes of the family Platycephalidae (the flatheads). *Mem. Coll. Agricul., Kyoto Univ.,* (**68**), 1–109.

Miyahara, H., Shimazaki, M. and Yabe, M. (2004) Note on fresh coloration for *Stichaeopsis epallax* (Jordan and Snyder, 1902) (Perciformes: Stichaeidae). *Biogeography,* **6**, 7–10.

中坊徹次（1993）コチ科．pp. 535–539, 中坊徹次（編），日本産魚類検索．全種の同定．第1版，東海大学出版会，東京．

中坊徹次（2000a）コチ科．pp. 615–620, 中坊徹次（編），日本産魚類検索．全種の同定．第2版，東海大学出版会，東京．

中坊徹次（2000b）カジカ科．pp. 628–650, 中坊徹次（編），日本産魚類検索．全種の同定．第2版，東海大学出版会，東京．

Nelson, D.W. (1984) Systematics and distribution of cottid fishes of the genera *Rastrinus* and *Icelus*. *Occas. Pap. Calif. Acad. Sci.,* (**138**), 1–52.

野別貴博・中川秀人・矢部 衞・仲谷一宏・増田 泰・尼岡邦夫 (1997) 知床半島沿岸域の魚類相．知床博物館研究報告，**19**, 1–22.

落合 明 (1984) コチ科．pp. 321–322, 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編)，日本産魚類大図鑑，東海大学出版会，東京．

Randall, J.E. and Lim, K.K.P. (2000) A checklist of the fishes of the South China Sea. *Raffles Bull. Zool., Supplement,* **8**, 569–667.

Randall, J.E., Shimizu, T. and Yamakawa, T. (1982) A revision of the holocentrid fish genus *Ostichthys*, with descriptions of four new species and a related new genus. *Japan. J. Ichthyol.,* **29**, 1–26.

Sato, S. and Kobayashi, K. (1956) The bottom fishes of Volcano Bay, Hokkaido. I. A taxonomical study. *Bull. Hokkaido Reg. Fish. Res. Lab.,* **13**, 1–19.

Sheiko, B. A. and Fedorov, V. V. (2000) Part 1. pp. 7–69, Russian Academy of Sciences Far-eastern Branch Kamchatka Institute of Ecology and Russian Academy of Sciences Zoological institute (eds.), *Catalog of Vertebrates of Kamchatka and Adjacent Waters,* Kamchatsky Pechatny Dvor (in Russian), Petropavlovsk-Kamchatsky, Russia.

Sheiko, B.A. and Mecklenburg, C.W. (2004) Family Agonidae Swainson 1839–poachers. *Calif. Acad. Sci. Annotated Checklist of Fishes,* **30**, 1–27.

清水 長 (1997) イットウダイ科．pp. 159–167, 岡村収・尼岡邦夫 (編・監修)，日本の海水魚，山と渓谷社，東京．

塩垣 優・石戸芳男・野村義勝・杉本 匡 (2004) 改訂青森県産魚類目録．青森県水産総合研究センター研究報告，(**4**), 39–80.

塩垣 優・野村義勝・杉本 匡 (1992) 青森県産魚類目録補訂-I．青森県水産増殖センター研究報告，(**7**), 17–31.

Soldatov, V. (1916) A new genus of Blenniidae from Peter the Great Bay. *Ezh. Zool. Muz. Imp. Akad. Nauk,* **20**, 635–637.

鶴岡 理・阿部拓三・宗原弘幸・矢部 衞 (2006) 北海道および宮城県から記録されたカジカ科魚類ヒメフタスジカジカ *Icelinus pietschi*．魚類学雑誌，**53**, 89–93.

鶴岡 理・阿部拓三・佐藤長明・矢部 衞 (2007) 日本初記録のタウエガジ科魚類ヒゲキタノトサカ *Alectrias cirratus*．魚類学雑誌，**54**, 203–208.

Tsuruoka, O., Maruyama, S. and Yabe, M. (2008) Revision of the cottid genus *Astrocottus* Bolin (Perciformes : Cottoidei), with the description of a new species from northern Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl.* **2**, 25–37.

Tsuruoka, O., Munehara, H. and Yabe, M. (2006) A new cottid species, *Icelus sekii* (Perciformes : Cottoidei), from Hokkaido, Japan. *Ichthyol. Res.,* **53**, 47–51.

Tsutsui, D. and Yabe, M. (1996) A new species of sculpin, *Icelus ecornis* (Scorpaeniformes : Cottidae) from the southwestern Okhotsk Sea. *Ichthyol. Res.,* **43**, 301–306.

上野達治 (1971) 北海道近海産魚類目録．北海道水産試験場報告，(**13**), 61–102.

矢部 衞 (1983) *Icelus mandibularis* sp. nov. pp. 282–285, 尼岡邦夫・仲谷一宏・新谷久男・安井達夫 (編)，東北海域・北海道オホーツク海域の魚類，日本水産資源保護協会，東京．

Yabe, M. (1991) *Bolinia euryptera,* a new genus and species of sculpin (Scorpaeniformes : Cottidae) from the Bering Sea. *Copeia,* **1991**, 329–339.

Yabe, M. and Maruyama, S. (2001) Systematics of sculpins of the genus *Radulinopsis* (Scorpaeniformes : Cottidae), with the description of a new species from northern Japan and the Russian Far East. *Ichthyol. Res.,* **48**, 51–63.

矢部 衞・松浦啓一・新井良一 (1991) 北海道北部の海産魚類．国立科学博物館専報，(**24**), 117–130.

座間 彰 (2001) 宮城県の魚類相．三和印刷所，石巻．